

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成29年10月12日 (2017.10.12)

【公開番号】特開2016-214435(P2016-214435A)
 【公開日】平成28年12月22日 (2016.12.22)
 【年通号数】公開・登録公報2016-069
 【出願番号】特願2015-100736(P2015-100736)
 【国際特許分類】

A 6 3 F 5/04 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 5/04 5 1 2 Z

A 6 3 F 5/04 5 1 2 B

【手続補正書】

【提出日】平成29年8月29日 (2017.8.29)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 1】

所定の条件を満たしたときに、特別役物が作動する遊技機において、
 前記特別役物が作動している遊技における小役の入賞回数に関する値を記憶可能な第 1
 記憶手段と、

遊技価値の付与数に対応する値を記憶可能な第 2 記憶手段と
を備え、

前記特別役物が作動している遊技において、

小役が入賞した場合には、入賞した小役に基づいた遊技価値の付与数に対応する値を第
 2 記憶手段に記憶可能とし、

所定のタイミングで、第 2 記憶手段に記憶された値が特定値であるか否かを判断し、前
 記特定値であるときは第 1 記憶手段の値を更新せず、前記特定値でないときは第 1 記憶手
 段の値を更新可能とする

ことを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 1】

本発明は、特別役物が作動している遊技における小役の入賞回数に関する値を記憶可能
 な遊技機に関するものである。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 4】

しかし、前述の従来技術において、入賞回数計数手段 1 3 2 がどのようにして入賞回
 数をカウントするかについての具体的記載はない。

本発明が解決しようとする課題は、特別役物が作動している遊技における小役の入賞回数に関する情報を正しくカウントすることである。

【手続補正４】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００５

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００５】

本発明は、以下の解決手段によって上述の課題を解決する。なお、カッコ書きで、対応する実施形態の構成を示す。

本発明（第５実施形態）は、

所定の条件を満たしたとき（ＲＢに係る作動状態フラグが「１」であるとき（ステップＳ５４５で「Ｎｏ」のとき））に、特別役物（ＲＢ）が作動する遊技機において、前記特別役物が作動している遊技における小役の入賞回数に関する値を記憶可能な第１記憶手段（アドレス「Ｆ０７４」のＲＢ作動時の入賞回数）と、遊技価値の付与数に対応する値を記憶可能な第２記憶手段（アドレス「Ｆ０６Ｃ」のメダル払出し枚数データ）と

を備え、

前記特別役物が作動している遊技において、

小役が入賞した場合には、入賞した小役に基づいた遊技価値の付与数に対応する値を第２記憶手段に記憶可能とし（図５９中、ステップＳ５９３）、

所定のタイミング（図６３中、ステップＳ５６３）で、第２記憶手段に記憶された値が特定値（「０」）であるか否かを判断し、前記特定値であるとき（ステップＳ５６３で「Ｙｅｓ」）は第１記憶手段の値を更新せず、前記特定値でないとき（ステップＳ５６３で「Ｎｏ」）は第１記憶手段の値を更新可能とする（ステップＳ５６４）

ことを特徴とする。

なお、本発明において、「所定のタイミング」とは、第２記憶手段に遊技価値の付与数に対応する値が記憶された後の任意のタイミングを意味し、実施形態で示したステップＳ５６３に限定されるものではない。

【手続補正５】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００６

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００６】

本発明によれば、第２記憶手段に記憶された値が特定値であるか否かを判断するだけで、第１記憶手段の値を更新するか否かを判断することができる。これにより、情報処理の簡素化を図ることができる。